

平成16年 3月10日

平成16年度

事業計画報告書

(社)岐阜県特殊工事技術協会

平成16年度 事業計画（案）

（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

近年の建設産業を取り巻く環境は、一向に回復の兆しの見えない景気低迷と社会資本整備投資額の激減等の影響を受け、過去に例を見ない危機的な状況に直面しており、提案型体質への変革が急務となっております。

岐阜県においても、現下の厳しい財政状況に即応し、将来を見据えた予算編成に苦慮され、重要課題である「弱者対策」、「人づくり」に考慮したきめ細かな予算編成が行われました。この変革の大きな波は、長く続く不況と相乗し、大きな不安として我々の頭上に蠢いておりますが、こんな時期だからこそ、培ったノウハウに斬新な創造力を加え、新たな需要を自らの手で創出する術を兼ね備えた当協会の実力を如何なく発揮すべき時なのだと確信しております。

県内建設業者の技術集団として活動している当協会の7委員会は、工種・分野を絞って新工法・特殊技術の研究に取り組んでおります。今年度も技術の研鑽は元より、本格的にその活動を開始した岐阜社会基盤研究所に積極的に参画し、最適な品質の提供とその実現の為に新技術・新工法・効率化の提案が出来る公益機関として、地域の発展に寄与することを位置付け活動していきます。

トンネル技術委員会

1. 活動方針

トンネルの維持修繕、環境問題及び新工法に関して、調査研究を行い県内業者の技術力向上を図る事と、適正工法の研究等を行い、トンネル施工に関してより質の高い社会資本整備・公共福祉の増進に寄与する事を目的とします。

2. 活動内容

県内業者の技術力向上の為に、以下のような活動を行います。

現場見学会の開催

トンネル工事の見学会を実施し、技術・知識のレベルアップを図る。

将来の維持修繕に向けた県内のトンネル調査

トンネルマップ作成のための情報収集。

作業環境の改善

低粉塵化試験施工結果の報告書作成（岐阜社会基盤研究所テーマ）
岐阜県へ提案する資料の構成と提案。

ダム技術委員会

1．活動方針

本委員会はダム工事、及び砂防ダム工事に関する調査研究活動を実施し、ダム工事の新技术・新工法を調査研究することにより会員相互の技術力の向上を図り、新技术・コスト縮減策を提案する。

2．活動内容

岐阜社会基盤研究所の合同研究

前年度に引き続き研究テーマ「スリットダムのスリット材を鋼管から汎用性の高い材料に転換する」を継続し試験フィールドへ研究活動を進める。

- 1) H 鋼スリットを用途別及びタイプ別に分類し構造検討を行い鋼製スリットの使用範囲、使用基準を確立し適用基準の明確化を図る。
- 2) 構造計算例をもとに H 鋼フレーム構造の詳細設計図書及び設計仕様書の作成。
- 3) 岐阜県砂防課と連携し試験フィールドによる試験モデルの試作と試験施工への展開。
- 4) (財)砂防・地すべりセンターでの形式認定による問題点の調査研究の実施。

ダム湖の水質問題と浄化対策について調査研究

多目的ダムのダム湖の水質は、様々な要因から悪化が目立つようになってきている。この問題に関して発生原因と予防対策及び浄化方法について調査研究を実施する。

現場研修によるダム技術の習得

岐阜県内で現在施工中の徳山ダム・中野方ダム・丹生川ダムにおける各ダム現場の新技术・新工法・環境対策等について現地研修を行う。

下水道技術委員会

1. 活動方針

高度な品質の確保、新技术の取得、環境対策を配慮した工法・施工方法への研鑽の為に、研究活動を通じて技術向上を目指し、下水道工事における提言のできる資質を養う。

2. 活動内容

下水道委員会のこれまでの、調査・研究課題の継続事項として下記を計画する。

当協会下水道における実績調査の実施

平成9年～平成15年度までの調査未実施の特殊工事（推進・シールド工事 処理場工事等）について実績調査を実施する。

管更正法、各工法について、長所、短所を抽出し理解を深める。

これまでの、管更正法の研修活動の継続として実施する。

今年度は、管更正各工法の比較・検討を実施する。

新技术の研修・見学会の実施

1) 下水道展への参加

これまで下水道展に参加し、新技术の習得、新技术の傾向等非常に参考になり委員会の研究活動に役立っている。今年度も継続する。

2) 他県の特殊工事下水道現場を見学、研修する。

施工現場の研修活動は、特殊技術の把握、施工における問題点の認識等重要な経験となる。

岐阜県においては、すでに大規模なシールド工事等が実施されていない為他県（例；三重県の流域下水道等）の施工現場に協力を願い、研修を計画し実施する。

橋梁技術委員会

1. 活動方針

平成15年度の委員会活動を踏まえ、平成16年度は、活動方針（目的）を達成するために、また今後の発注工事の変化を先取りしたテーマについても研究し、より一層橋梁技術委員会の活動を充実させ、地域への貢献をはかっていきます。

2. 活動内容

設計・施工上の問題点の検討（継続課題）

- 1) 既設橋梁構造物に対する補修方法の検討
- 2) コンクリート構造物の品質向上について

最近ライフサイクルコストを縮減しようと言う事が、盛んに言われるようになってきました。高度成長期に建設されたコンクリート構造物は、耐用年数に近づいてきます。そこで、効果的なメンテナンスを実施することにより構造の長寿命化をはかることが必要になってくると思われれます。

そのような状況の中で、我々に求められている課題は何かを念頭に、上記のテーマについて活動していきます。

自然共生技術委員会

1. 活動方針

本委員会は、自然共生型工事の調査研究活動を実施するとともに、生物の生態を研究し、自然共生工事における施工管理のみならず、自然共生にかかわる工事計画の技術向上を目的とする。

2. 活動内容

自然共生技術委員会は、平成15年度から自然共生型川づくりに加え、「擁壁等コンクリート面緑化技術に関する研究」をテーマに、道路等の劣化して汚れたコンクリート壁面を自然にあふれた柔らかいイメージの緑で覆い、自然を復元する手法に取り組んでいます。

期間を平成17年度までの3年間とし、現在実績調査に続き植物の特性を調べる段階に入っています。平成16年度は、さらに植物の生態系にも研究を深めて参ります。また、平成16年から岐阜県が設立した「水環境

づくり日本一・ぎふ推進会議」へ意見・提案をするため水辺チームに参加し、有効な意見・提案に取り組んで参ります。

安全・環境委員会

1．活動方針

労働環境の改善策の提案。

環境問題の研修と提案。

各委員会および岐阜県等と協力して安全環境問題への取組み。

岐阜社会基盤研究所の会員としての研究と提案。

2．活動内容

安全環境パトロールの実施及び現場での労働環境改善対策の発信。

各種環境フォーラム等への参加。

各種安全講習会・研修会への参加。

仮設足場の問題点の確認と調査。

企画・広報委員会

1．活動方針

委員長・事務局会議を開催し、それぞれの委員会活動が活発かつ円滑に行われるよう連絡調整を行います。また、委員会における活動・研究の成果を建設技術研修会等により各方面から多数の参加を頂けるように企画・開催しPRに努めます。

2．活動内容

研究成果が公益に役立つように、建設技術研修会の企画・開催・講師の派遣等を企画して参ります。

広報活動として、建設産業の役割、高度な建設技術についての社会的理解・ニーズの高度化及び多様化に対して各種講演会、情報交流の場に積極的に参加をします。

当協会の活動内容をパンフレット・HP等にてPRに努めます。